

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.111  
2024. February

発行者 琉球病院事務部長  
大城 英作

## 基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

### 「芸術祭、創意工夫の作品が多数展示」

#### サービス向上委員会

当院では、入院やデイケアを利用されている患者さんの療養生活に彩を添えることを目的に毎年「りゅうきゅう芸術祭」を開催しています。今年度も令和5年11月10日～15日にあしびな棟（リハビリ棟）において、「りゅうきゅう芸術祭」を開催しました。近年、新型コロナウイルス感染症の影響で院内の様々なイベントが中止を余儀なくされていましたが、昨年度から再開した芸術祭を今年度も患者さんやスタッフの感染管理をしっかり行なうことで、無事に開催することができました。きめ細かいやさしいタッチの作品、スケールの大きい大胆な作品、色合い豊かで創造的・芸術的な作品、複数人で協働して完成させた作品など様々な創意工夫がされた作品が80点近く出品され、また、四季折々の作品は一年を通じて患者さんの日頃の創作活動が営まれている様子が想像されました。



観覧者には自分の好みの作品に投票をしていただき、7つの賞を設けて、芸術祭の後に受賞者への表彰を行ないました。「院長賞」には「もみじの川の流れ」という切り絵と水彩で畳サイズに大胆かつきめ細やかに描かれた作品が選ばれました。芸術祭のアンケートでは、ほとんどの患者さん、スタッフより好評な評価を受けて全体として見事な展示会となりました。今後もスタッフ一同、患者さんの療養生活に彩を添えられる企画や取り組みを行なっていきたいと思います。



#### ● 地域医療連携室だより

精神保健福祉士 伊波 勤子

琉球病院では、皆様からの相談窓口として地域医療連携室を設置しております。当院はアルコール依存症や治療抵抗性統合失調症に効果のあるクロザピン治療、認知症、児童精神科外来など多岐にわたる医療をご提供しております。

成人外来の初診については、事前に受診予約も承っておりますが、当日11時までのご来院の受診も対応しておりますので、ご相談はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。

#### 院長



ふくじ やすひで  
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本病院・地域精神医学会評議員。琉球大学医学部 臨床教授。

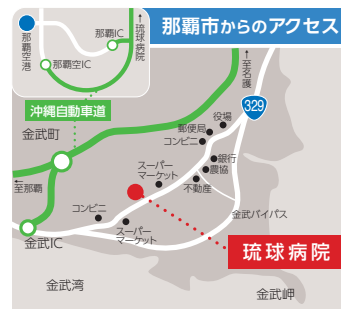
#### 診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリン外来
- ・アルコール依存症等外来

#### 病床数

353床

- ・精神 151床  
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



#### 路線バス

那覇BS(下り)または名護BS(上り)より  
沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停  
下車徒歩3分

#### 自動車

那覇市から40分沖縄自動車道金武  
インターから名護向け5分

#### お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15  
(土・日・祝日・年末年始以外)  
TEL 098-968-2133(代)  
内線 231・234

#### 地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550  
FAX 098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



## クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン (CLZ) 治療を開始し、全症例数は延べ407例になりました。2023年12月のCLZ導入数は2例で、このうち1例は他の精神科病院に長期入院中の紹介患者さんで、もう1例は精神科クリニックに通院中の紹介患者さんでした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、隔離や身体拘束は、ほとんどの症例で解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://www.drugs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

## こども心療科

心理療法士 我喜屋 良行

こども心療科では、2月からADHDのお子さんの保護者を対象にしたペアレントトレーニングプログラムである「ウェル・ペアレント・ジャパン (Well Parent Japan : WPJ)」を実施します。これは、イギリスで開発されたADHDに特化したペアレントトレーニングプログラムである「ニューフォレスト・ペアレント・プログラム」を基に、OISTが日本版として改定したもので、これまでの研究によってその効果が実証されています。これまで琉球病院もOISTと協力して、何組かの保護者グループにプログラムを実施してきましたが、参加された保護者の皆さんが、それぞれの苦勞に共感しあったり、労わりあったりしながら、ADHDに関する知識を身につけ、対応する力を引き出しあっていく過程を、一緒に体験させてもらうことができました。今回のプログラムも、一緒に学びあえるようなグループになればと楽しみにしています。

## 精神科急性期病棟近況報告

東I病棟師長 中井 邦彦

新型コロナウイルスの5類移行の影響もあり、今年度は入院相談が順調に増加し、1年を通して満床に近い状況が続いています。入院される患者さんは従来の統合失調症や気分障害の患者さんに加えて、認知症症状の疑われる高齢患者さんが増えています。高齢の患者さんは肺炎や尿路感染などの身体疾患を合併する事も多いため、持病を悪化させないように身体症状の観察とアセスメントに力を入れてケアの提供を行っていきたくと考えています。これからも安全な治療環境を提供しながら入院の受入れを続けていきます。

## アルコール依存症病棟近況報告

東III病棟師長 松井 廉

アルコール依存症病棟を開設して6ヶ月が経過しました。半年間で約100名の方が入院されました。入院中は、断酒会、AA、NAの皆さんの協力を頂いております。自助グループの皆さんとの交流が、回復の力となっています。退院後に、外来に通院されている方が、新たな生活を始められている体験を、病棟に来て語っているその姿に、患者さんだけでなく、スタッフも励まされています。年末年始には、お酒のない安全な環境を求めて入院される方も数名いらっしゃいました。皆さんが、年末年始の特別プログラムに参加して、1年間の振り返りや、年始には、抱負を書道に表現し、心新たに個々の思いを誓っておりました。入院中は豊富なプログラムを準備しております。今後も多くの方が回復されるよう、早めの受診をお待ちしております。困っているご家族のために、家族教室も開催しておりますので、是非、参加をお待ちしております。

## 行事食『クリスマスメニュー』を提供しました

管理栄養士 矢口 友梨

入院中でも季節の行事を楽しんでいただくために、月1回行事食を行っています。12月は24日に「クリスマスメニュー」の提供を行いました。フライドチキン、グラタン、ミネストローネ、かぼちゃのチーズサラダ、チョコアイス (Lady Borden) にクリスマスカードを添えました。また、噛む力や飲み込む力が低下した方に提供しているきざみ食では、フライドチキンのムースなど普通食と見た目が変わらないよう工夫しました。みなさん、「チキンが思っていた以上に大きくて嬉しかった」「チョコアイスが濃厚で美味しかった」「クリスマス感が出ていた」と喜んで頂けました。今後も、行事食を含め安全で美味しい給食を提供できるよう努めてまいります。

